

## 1 麦類

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠
オオムギ 赤かび病	早い	平年並	・作況調査ほ「シュンライ」(10月中旬播種, 4月27日現在)の出穂期は, 4月17日で平年より12日早く, 4月中に開花期に達すると見込まれる。( - / ) ・向こう1か月の平均気温は, 平年並か高いと予報されている。( ± ~ - / ) ・開花期前後の降雨が発生に好適であり, 向こう1か月の降水量は, ほぼ平年並と予報されている。( / ± )
コムギ 赤かび病	早い	平年並	・作況調査ほ「シラネコムギ」(10月中旬播種, 4月21日現在)の出穂期は, 平年並の平均気温で推移すると平年より早く, 開花期は5月中旬頃と予測される。( - / ) ・向こう1か月の平均気温は, 平年並か高いと予報されている。( ± ~ - / ) ・開花期前後の降雨が発生に好適であり, 向こう1か月の降水量は, ほぼ平年並と予報されている。( / ± )

※予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず  
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

より詳しい内容は, 次のページよりご確認ください。

次回, 発生予報第3号の発行日は, 5月22日(金)の予定です。

## －5月中旬までの発生予報と防除のポイント－

作況調査は:大崎市古川(古川農業試験場)

天候予報:仙台管区气象台4月23日発表

### 1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
オオムギ赤かび病	早い	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 作況調査は「シュンライ」(10月中旬播種, 4月27日現在)の出穂期は, 4月17日で平年より12日早く, 4月中に開花期に達すると見込まれる(表1)。
- (2) 向こう1か月の平均気温は, 平年並か高いと予報されている。
- (3) 開花期前後の降雨が発生に好適であり, 向こう1か月の降水量は, ほぼ平年並と予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
コムギ赤かび病	早い	平年並

#### 予報の根拠

- (1) 作況調査は「シラネコムギ」(10月中旬播種, 4月21日現在)の出穂期は, 平年並の平均気温で推移すると平年より早く, 開花期は5月中旬頃と予測される(表1)。
- (2) 向こう1か月の平均気温は, 平年並か高いと予報されている。
- (3) 開花期前後の降雨が発生に好適であり, 向こう1か月の降水量は, ほぼ平年並と予報されている。

表1 出穂期及び開花期(大崎市古川)

		出穂期(月/日)	開花期(月/日)
大麦 (品種:シュンライ)	令和2年(実測)	4/17	—
	平年	4/29	5/5
小麦 (品種:シラネコムギ)	令和2年(予測)	5/1	5/13
	平年	5/9	5/19

・播種日:令和元年10月17日

・出穂期の予測:4月21日現在の主茎幼穂長及びアメダス古川の平均気温の平年値をもとにした

・開花期の予測:上記の予測出穂期以降, 平年並の平均気温で推移すると仮定して算出した

### 2 防除のポイント

#### (1)赤かび病

- ・赤かび病は開花期前後にかけて降雨が続くと発生が多くなる。

- ・薬剤防除の適期は、1回目が開花始期～開花期、2回目はその7～10日後である。生育状況をよく観察し、適期を逃さないよう防除を行う。
- ・薬剤耐性菌対策のため、同一作用機構分類に属する剤の連用を避ける。  
(参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)
- ・「夏黄金」の防除は、「ゆきちから」と同様に3回を基本とし、3回目の防除は2回目の7～10日後に実施する。
- ・各品種の出穂期について、「ホワイトファイバー」は「シュンライ」より1～2日遅く、「夏黄金」は「ゆきちから」より1～2日早いので、1回目の防除のタイミングに注意する。

＜参考＞ 出穂期（出穂率 40～50%）から開花期に達するまでの日数の目安

日平均 気温(°C)	大 麦			小 麦		
	開花始	開花期	開花終期	開花始	開花期	開花終期
10	8	11	14	14	19	24
13	6	9	12	11	15	19
15	5	7	9	9	12	15
18	3	5	7	6	8	10

・普及に移す技術第 83 号参考資料5「麦類の出穂期を基準とした開花期予測」

<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/69869.pdf>

－農薬の適正使用について－

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターのトップページ:<http://www.famic.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429 E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)